

2017 4 April  
Bulletin  
2017年4月10日発行  
第21巻 第10号 通巻235号



### 今月の聖句

最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりのわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後、十二人に現れたことです。

コリントの信徒への手紙一 15章4節

クラブ会長主題 「update」 レベルアップの一年に

国際会長主題 "Our Future Begins Today" “私たちの未来は、今日から始まる”

アジアエリア会長主題 "Respect Y's Movement" “ワイズ運動を尊重しよう”

西日本区理事主題 “ワイズ魂で更なるワイズの活性化を!” "Energizing Y's Men's Clubs with the Y's spirit!"

京都部部長主題 “いつも喜んでいなさい” "Be joyful always"

クラブ会長：安井基晃

国際会長：JOAN WILSON (カナダ)

アジア会長：Tung Ming Hsiao (台湾)

西日本区理事：岩本 悟 (熊本にし)

京都部部長：廣井武司 (京都プリンス)

## 「2017年の自分らしさと取り組み」

ブリテン委員長としての一年間をキーワードにしてあげてみました。

挑戦、会長主題update, 自分らしさ、委員全員の協力、任せる、暖かい目で見守る諸先輩方です。

まずは挑戦。挑戦とは、戦いや試合をいどむこと。困難な物事や新しい記録などに立ち向かうこと。

だそうです。やはり新しい事をするには勇気もいります。周りからの意見、反対、クラブへの思い。

などなどありますが僕の1年は好きなように今までにないドキドキ、ワクワクする楽しいブリテン

にしました。

会長主題 update 今年の主題に添った委員長の覚悟や思い。

自分らしさ 自分自身の個性、自分しか出来ないこと。

委員全員の協力 自分自身が自分らしいブリテンに挑戦することで、皆にその思いを伝えて納得してもらい、1つの目標にな向かってやりとげる。

任せる 自分1人ではなにもできない。

1人で抱え込まず各委員の方々に仕事を割り振り任せ皆でスキルアップ、向上していく。

暖かい目で見守る諸先輩方 まんまです。新参者の私を暖かく最後までフォローし、見えない所での支え。

感謝します。これは全て成功体験です。クラブではなく、各会社に置き換えても何か新しい事事業、企画をするにあたって明確な意識、チームワークは大切ではないでしょうか？

それに気付いたブリテン委員長でした。



ブリテン委員長  
梅原功平

✂ キリトリ線

## 〈強調月間〉 YMCA サービス ASF

■ 3月例会出席	
第一例会	
メンバー	0/32名
ゲスト	0名
メネット	0名
コメット	0名
第二例会	
メンバー	0/32名
ゲスト	0名
メネット	0名
コメット	0名

■ BF・EF・JWF	
BF	0円
EF	0円
JWF	0円

■ ニコニコ	
3月	
第一例会	0円
第二例会	0円
累計	17,000円

■ ファンド	
3月	
	0円
累計	0円

会 長 安井基晃  
副 会 長 青木禎一郎  
古田裕和  
外部書記 小幡 弘  
内部書記 溝口 誠  
会 計 若井克俊

## 3月第一例会「TOF & EMCオリエンテーションアワー」

3月8日(水) 19:00~20:00 於:京都YMCA  
出席者:メンバー21名・ゲスト4名

さて、今回の例会は毎年最低1回は必ず開催の、世界の飢餓に苦しむ人々のことを考え、食事を抜いてその費用を国際協会に送金し、途上国でのYMCAのプロジェクト活動等に使うという趣旨のTOF (Time of Fast・断食の時) 例会であります。

プログラムは3本立てで、まずは次期の各委員長就任の承認を求める臨時総会の後、引き続き、山川新一京都部地域奉仕主査により、TOFを含む各種地域奉仕事業における献金について、具体的な使途や実績を含めたわかりやすい説明を受けました。

そして最後は、本日お越しのメンバー候補のゲストの4名の方々へのEMCオリエンテーションアワーであります。岡本EMC委員長より、20分の制限時間ながら、判りやすく中身の濃いオリエンテーションでありました。ここ数年で、クラブについての概要をまとめたマニュアルは著しく進化し、以前は1時間近く要した説明も短時間で集中して聞く事のできるすばらしいコンテンツに仕上がっております。きっと4名のゲストの方々もこのクラブについて興味を持って頂けたと思います。皆様のご入会を心よりお待ちしております。



山内 哲



## 3月第二例会「ゲストスピーカー例会」

3月22日(水) 19:00~21:00 於:ANAクラウンプラザホテル京都  
出席者:メンバー21名・ゲスト9名

『ワインのお話』がテーマで、講師はメンバー候補でワインソムリエの竹村亜沙美様です。

ビジターにエイブルクラブの山根会長とメネットお迎えしました。また、6名のゲストをお迎えしての例会となりました。

待ちに待った、メインプログラムです。最初に、スパークリングワインが注がれ、青木次期会長による乾杯の発声で

開始となりました。

スペイン産の超辛口との説明に、なるほど!次に、白ワイン2種類が注がれました。辛口のほうのワインですが、宮崎県の麦焼酎「百年の孤独」を初めて飲んだ時、ワインみたいな味やとびっくりしたことを思い出しました。このワインは、百年の孤独みたいな味や〜、今まで飲んだことのない白ワインでした。

続いて、赤ワイン2種類が注がれました。こちらも濃い



村澤功三

[次ページに続く](#) ➤

ほうのワインは高級ですという説明があったのですが、最後まで美味しいとは思えませんでした。

何か雑味のようなものが感じられて、甘み・酸味・渋みのバランスというより、くせ(複雑な味)のほうが強く感じられました。テレビでやっている高級ワインの方を当てる番組で、ほとんど当てられないことの原因が実感できました。

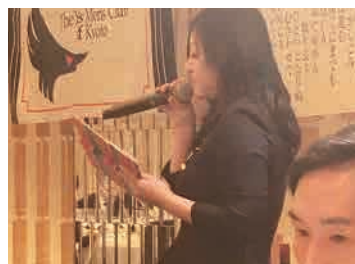
感覚や好みは正直なんでしょうが、理屈と間逆に感じるところが不思議です。まあ、ブリテン原稿担当ということで本日の例会について書かせていただいています。私のようなものがワインの味をコメントするには無理がありま

す。

本日はワインの話をうかがうことができた機会でしたので、ワインのことを少し理解してみて、本物のワインの世界に近づいてみたいものです。

私事ですが、某百貨店ワイン売り場の月間企画商品(12本1万円)を家飲みしているのですが、どれも十分に美味しく楽しんでいます。これからも色々なお酒を永く楽しみたいものです。

さて、例会の後は1Fラウンジで懇親会ですよ～皆様、飲み過ぎには注意しましょう…



## 「リトセンチャリティーゴルフコンペ2017参戦記」

3月5日(日) 於:瑞穂ゴルフクラブ  
出席者:メンバー1名

3月5日、瑞穂ゴルフクラブで開催されたチャリティーゴルフコンペにツアービークラブ代表として参戦して参りました。

今回の参加者はゲスト含め20組75名。春到来を感じさせるポカポカ陽気で風無し快晴という絶好のコンディション。好スコアが出るであろうはずでした…

言い訳と取られるかもしれませんが、前日のTOBEサクセッションのバンド練習が悪影響。3時間に渡る特訓で腱鞘炎気味。加えて打上げの某中華料理店で呑んだジョッキ入りのハイボールが響きました～(どんなウイスキー使ってるねん!!)

胃もたれしてる上に二日酔いでボールが2個に見える始末。朝一ティーショットはいきなりのOB。ゴルフカートの同乗者から酒臭いと責められつつラウンド。何とか二日酔いから解放され復調しましたが前半の乱調が尾を引きハーフ55!後半こそは頑張るぞ～の予定でしたが昼休み1時間半も有り酒盛り状態で昼からはハーフ53…(涙)

ツアービーからは一人ぼっちな参加でアウェイ感一杯でしたが、ゴルフ場に到着するとアウェイ感も吹き飛びます。顔馴染みの他クラブメンバーばかりというか、ワイズの繋がりでも初対面でも打ち解けて和気藹々ムードでした。これぞワイズメンズクラブかも!



小幡 弘

特に目を引いたのは新クラブ北京都フロンティアクラブから8名もの参加でしたよ。

最終的な献金額は後日報告との事ですが20万円近いお金が集まったかと思います。

今回のホストされた洛中ワイズメンズクラブの皆様、本当にお疲れ様でした。楽しかったで〜す。

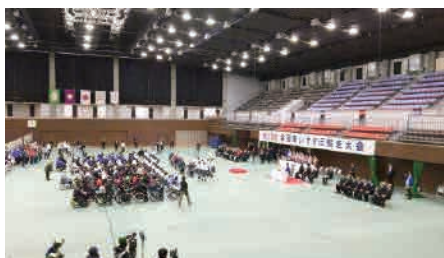


## 「全国車いす駅伝のサポート」

3月12日(日)

出席者：メンバー8名

グランドプリン  
スホテルや中継地  
点、最終ゴール地点  
でのバスからの乗  
降サポートや誘導  
等を行いました。



今年は国際大会と開催日が重なっていたようで参加チームは昨年の23チームから18チームと減っておりました。そのため、バスからの乗降や競技用車いすへの載せ替えは昨年比べて混雑することもなくスムーズを行うことが出来ました。

ただ、その中でも体調不良の選手もおられトイレ介助を行いました。走行後で用品が手元にない中でどのように介助するのが良いのか悩む場面もありました。

一方で積極的に自分で出来ることはサポートを要しないとする選手の姿勢を見ていると自分も頑張らないといけなと身が引き締められました。



宮田雄輔

ゴールの西京極に移動して選手の皆さんをバスから降ろしました。現地には各選手が普段使っている車いすが準備されており、各自に最適化された仕様になっているのを見ていると障害と言っても人それぞれ違うのだなと改めて実感しました。

その後、昼食と閉会式が行われました。今年はメンバー全員がボランティアのジャンパーを着ていたのですんなり昼食を取ることができました。

最後に選手の皆さんをバスに乗せ、お見送りをして事業を終えました。

